



二十歳のつどい

令和8年1月11日(日)、農村環境改善センターで「二十歳のつどい」が挙行され、令和7年度に二十歳を迎える21名が出席しました。今回は、当日の様子や、節目を迎える皆さんの抱負を紹介します。

人生の節目を祝う

「久しぶり!」。二十歳のつどい会場では、晴れやかな振袖やスーツに身を包み、仲間との再会、人生の節目と共に喜ぶ姿が見られました。

家族も多く同席した式典では、主催者を代表して北川範之教育長、来賓の村中町長、佐藤町議会議長からお祝いの言葉が贈られました。

また、出席者を代表して菅原啓汰さんが登壇。「一人ひとりが社会の一員としての責任を胸に刻み、互いに認め合い、感謝の気持ちと挑戦する心を忘れずに、自分らしい未来を切り開いていきたい」と力強く決意を述べました。

コロナ禍を乗り越えて

今回二十歳を迎えた皆さんには、中学3年生だった令和2年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事や部活動の縮小・中止、友人との交流の制限など、思い描いていた日常を過ごせない時期を経験しました。

楽しみにしていた修学旅行



二十歳の君へのメッセージ

式典後には恩師の先生も合流し、「二十歳の君へ」のコーンへ。小学6年生の時に自分で宛てに書いた手紙や、中学生当時に撮影したビデオメッセージ、そして卒業旅行の様子をまとめたスライドショーが上映されました。

スクリーンに映し出される懐かしい姿に、少し照れくさそうな表情を浮かべながらも、仲間や先生方と過ごした時間を懐かしむ、心温まるひとときを過ごしました。

も中止となりましたが、町で代替事業として、3月13日から15日にかけて「卒業旅行」を実施。進学によって離れ離れになる仲間と思い出を共有する機会が設けられました。

そのときに撮影された写真には、マスク越しでも伝わる笑顔と、青春を思いきり楽しむ姿が写っていました。



二十歳の抱負

実行委員を務めた皆さんに、これから抱負を語っていただきました。

さまざまなことに積極的に挑戦し、仕事面でもさらに成長したい。また、友人との時間や多くの出会いを大切にしながら、充実したものにしていきたいです。

来年から社会人になるので、まずは仕事に慣れ、分からぬことがあればすぐ周囲の人に聞いて解決していくようになりたいです。

健康的な生活を目指し、大人としての自覚を持ち、視野を広げ、人のために行動できる思いやりの心をもった大人になりたいです。

大学での勉強を頑張り、将来について向き合っていきたい。ゆくゆくは起業し、北海道で世界に通じるような企業を作つて比布町に貢献したいです。

山田
蓮さん



藤本
哲己さん



古川
璃乃さん



荒尾
夕佳さん

